



ホーム
ページ
QRコード



ツイッター
QRコード

2021/8/1 No.87

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

望みの門本館完成特集号

望みの門本館完成の報告



理事長 木下 宣世

暑さ厳しい折、いかがお過ごしでしょうか。読者の皆様の上に神さまの

お守りとお導きが豊かにあるよう祈ります。今号はお祈り頂きました新家屋が無事完成したことを感謝を持ってご報告させて頂きます。昨年三月に始まった工事が六月末をもって終了し、去る六月三十日に建物の引き渡しが行われました。

当初、調査の結果地盤が軟弱であることが分かり、難工事になるのではと心配されました。しかし工事は順調に進み、ほぼ予定通り完了しました。すべては神様の御手の内に運ばれたことを思い感謝のほかありません。

また、建築業者の皆様、設計監理に当たられた方々、そしてこれらの方々とひんぱんに打合わせ会を開き、工事の推移に関わった職員方に感謝します。

それと共に工事のため今まで住んでいた家を明け渡し、転居を余儀無くされたグレースホームの方々や、同じく活動を制約されなが

らも工事のため様々な協力を惜しまなかった新生舎の皆さんにも感謝致します。

この他にも多くの方々の助力や背後からの祈りによってこの建物が出来上がったことを心に銘記したいと思います。本当にありがとうございます。

この後、活動や生活に必要な事務機器、家具、電化製品等々の搬入が行われ、本号が皆様のお手許に届く頃には引っ越しが始まるのではないかと思います。

望みの門学園、デイサービスセンター、ホームヘルプサービス、訪問看護ステーション、在宅サービスセンターそして事務局が入居します。この建物は「望みの門本館」と名付けられました。まさに当法人のセンター的役割を果たすようになるでしょう。

人が住み、出入りし、そこでの働きが始まると、無機質であった建物は血が通ったかのようにになり、福祉の業の生きた拠点となります。そしてこの建物における歴史が動き始めるのです。

私共は自分達の思いに勝る立派な建物を与えられました。この建物をいかに生かし用いるかがこれからの私共の課題となります。建物がどんなにすばらしくても、そこで行われる福祉の働きが真に利用者の皆様に喜んで頂けるようなものにならないければ意味がありません。

大切なことはこの建物が神さまから与えられたものであるとはっきり自覚することではないかと思えます。そうするとここは神さまの御業が行われる所となり、その結果神さまの栄光が現れる場となります。

もちろん私共は不完全な者であり、その働きには至らぬ点が多くあります。時には失敗もあります。とても神の栄光を現わすような器ではありません。しかし、この建物を備えて下さった神さまは、そこで行われる福祉の業をも導いて下さると信じます。与えられた建物が真に祝福された建物となるよう励みたいと思えます。これからも皆様の御支援と御加持を心からお願いし、感謝の報告とさせていただきます。

望みの門本館工事を終えて 津波避難タワーについて報告

UCA・都市・建築設計事務所
代表取締役 宇野 武夫



二十年五月十二日に起工式を終え順調に工事が進行していた望みの門学園・デイサービスセンター（津波避難タワー）新築工事が法人様のご指導のもと、コロナ禍の中で松栄建設さんの正確な工程管理により六月末に竣工しました。

皆様方のご努力、ご協力に感謝したいと思えます。さて、この本館は、一階にデイサービスセンター、二、三階に望みの門学園、四階に厨房、地域交流スペース、屋上に津波避難の広場を持った複合施設で、津波避難タワーと呼ばれるもあります。ここでは津波避難タワーについて報告します。

この地域は自然に恵まれた環境の良い自然公園の内にあり、岬の両側から東京湾のさざ波が打ち寄せ、海岸線には松林の防風林がある風光明媚な場所です。法人のある地区は、都市計画法上、住居系の地域に指定され、建築物の高さは10m以下に規定されているため高層の建築はありません。千葉県の防災マップによると、想定される震災時の最大津波による浸水高さが、六・八mとありこの地域はほとんど津波に洗われると思われます。

計画地は、漁港に行く道路を挟んで法人本部と対面する海岸から五〇〇m程の場所で、都市計画法上の市街化調整区域内にあり建築制限があります。学園は、都市計画法が施行される以前からこの場所にあり、今回、県審査会の許可により四階建ての学園の建築が可能となりました。海拔10mを超える高台や避難場所のないこの地域に津波避難タワーを兼ねた頑丈な建築の必要性を感じ法人関係者と相談し避難タワーを兼ねた建築を計画しました。津波災害時の人々の避難動線は、正面右手

奥にある鉄骨造の屋外階段を上り、四階屋上の避難広場に避難します。避難広場は地上十七mの高さに三〇〇㎡の広場を設け、自家発電機・変電設備等を設置しています。さらに四m高い富士見台広場を用意して、想定外の災害に備え、日常の東京湾と富士山の景観を楽しめる場としています。

津波避難ビルの計画は、東日本大震災後に各地の津波被害状況調査や関係者による研究が進められています。津波の力は鉄筋コンクリートのビルを転倒させたり、移動させたり、大きな被害を与えています。設計に当たり、宮城県石巻市立大川小学校や岩手県宮古市の震災遺構たろう観光ホテル等の津波被害状況を視察して大きな衝撃を受けました。経験したことのないいつ来るかわからない津波に対する安全な建築物の設計は、半世紀を超える設計活動の中で初めての経験ですができるだけのことはしたいと考え設計しました。地域交流スペースの屋根上に漁港からよく見える位置に十字架の塔を建て夜間照明をしています。津波災害時の目印になり、日常的に付近住民の安心感につながればと考えています。法人創立六十周年記念事業として計画されたこの建築は、他に例のない津波避難ビルを兼ねた複合施設です。戦後ドイツより来られたドーラ先生のまかれた種が今回の計画につながっています。建築の設計者として更なる

六〇年、一〇〇年に向けて使用できる本部機能を持った建築をと考え計画をしました。皆様の有意義な利用を楽しみにしています。有難うございました。

望みの門本館工事を終えて

松栄建設株式会社

常務取締役 滝原 健司



望みの門本館の落成おめでとございます。
 社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会

様の法人設立六十周年の節目にあたり長年に渡り計画されてこられたこの大事業に参画できたこと誠に光栄でございます。

当社の実績の中でも指折に難易度の高い工事であるとの認識で取組みまして着工時から緊急事態宣言の出たコロナ禍でありましたが、延労働者一二、七〇〇人の力で延労働時間では十万時間以上を無事故無災害で完成、引渡しが出来ましたのは、法人関係者の皆様及び設計監理者である㈱UCA・都市・建築設計事務所様のご指導、ご鞭撻のおかげであり近隣住民の皆様、新生舎の皆様、弊社協力会社の関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

完成して特に四階の地域交流スペースの窓

から見える緑と東京湾の景色の素晴らしさには着工時にはジャングルのような防風林の中で高低差もあり建物の位置が全く把握できない状態でしたが、建物や窓の配置を良く想像できたものだと思いの魅力に感動しました。工事のポイントに搬入路が1か所であり、共用する新生舎様の運営に影響を与えないことがありました。その搬入路内に本館の新しい電気や水道管を埋めるのですが、竣工間際の外構工事や輻輳する仕上工事期間を避け、昨年春の杭納入までの期間を利用して新生舎様のご協力の元先行して水道と電気の引込を行う事、また、新生舎の駐車場に浄化槽と受水道を設置する計画を立て実行しました。結果として最後の外構工事を円滑に進めることができました。

品質管理上のポイントとしては、「津波避難タワー」としての機能を十分果たせるように三十五mの長さとなる杭を確実に地中に施工する事及び階高の高く（一階は四・八m）複雑な形状の鉄筋コンクリートを密実かつ美しく施工することがありました。様々な施工方法の工夫と自主管理、設計監理者様のご指導もあり、地震や津波はあってはいけません、長期に渡り耐えうる構造体が構築できていると自負しております。

仕上げ工事のポイントは、地域交流スペース、二〜三階の螺旋階段、デイサービスの大庇

本館写真集



望みの門本館正面

があります。見栄えもそうですが、全体に機能的で安心感があり、合理的な施設という設計意図に沿って施工させていただきました。工事中に法人様のご要望にて内部の配置変更など変更点がありました。出来上がりますと確かにこの方が良かったと敬服いたします。結びになりますが、ミッドナイトミッションのぞみ会様の法人設立六十周年を心から祝い申し上げますと共に、これからもこの建物と共に益々ご発展されることをご祈念申し上げます。



望みの門本館側面



外階段



1階デイサービスセンターホール



1階在宅3部門



1階デイサービスセンターお風呂



2階学園光庭

2・3階学園1人部屋



4階シオンホール（地域交流センター）



4階厨房

吹き抜け



屋上津波避難タワー



屋上から見た
紫苑荘方面の景色



望みの門本館工事を終えて

法人事務局総務課長 斎藤 和美

のぞみ会の六十周年記念事業として新家屋が完成・誕生しました。海と緑に囲まれた大自然の中に一際目立つ白い建物です。屋上には十字架が設置されており、富津地区で十字架が設置された建物は初めてなので、とても新鮮に感じます。六十周年記念事業のテーマでもある「愛と奉仕の灯を掲げて」の通り、富津の地を灯してくれています。五月末に一部足場が取れ、建物の全容が現れてからあったという間の完成でした。事故もなく竣工を迎えられたのも工事関係者の皆様のお力があってこそです。この場を借りて感謝申し上げます。

五月の理事会後に完成間近の本館へ理事の皆様と見学に行き、工事関係者の方に案内していただきました。その後約一ヶ月で完成し、富津地区に新たなシンボルタワーが誕生しました。竣工の喜びと共に、創立六十周年記念事業を迎えらることに感謝いたします。望みの門本館には望みの門学園、望みの門デイサービスセンター、在宅三部門、事務局が移転します。望みの門デイサービスセンターでは定員も増員し、専門性の高い事業所として、富津市内の先駆的事業所となるよう在宅三部門と連携し、より良いサービスを提



供させていただきます。法人事務局も職員三〇〇名超の法人の要として、今後も様々な情報を発信しつつ、事務局機能を強化して行きたいと思っております。

また、この新家屋は防災機能も兼ねており、地域住民の皆様には非常時の避難場所としてご利用いただく「津波避難タワー」として非常に重要な機能を備え持つ建物でもあります。

のぞみ会が昭和三十七年五月に開設して以来、様々な施設・事業所が誕生してきました。職員数も私が入職した十八年前の職員数の三倍にもなりました。今後も法人の理念でもあたるキリストの教えに基づき、地域社会への貢献、先駆的福祉活動と情報の発信に取り組んで行きます。六十周年記念事業のテーマである「地域と共に歩む」愛と奉仕の灯を掲げて「の」とおり、これまでの六十年に感謝しつつ、お支えいただいた関係者の皆様や地域の皆様と共に、これから先も愛をもって仕え、のぞみ会の原点を顧みながら歩んで参ります。

まだまだコロナ禍の中ではありますが、十一月二十日の式典が無事挙行出来ますこと、一日も早くコロナが収束しますようお願いいたします。

屋上の十字架は夜間にライトアップされ富津の地を灯します。ひょっとしたら、富津の新たな「ばえスポット」になるかもしれません。

婦人保護施設 望みの門学園

望みの門本館工事を終えて

園長 田尻 隆

毎年五月の第一土曜日に望みの門のある富津市東区では側溝清掃が行われます。雨期や夏季を迎えるこの時期に清潔で快適な生活を保持するため、側溝に溜まった土やゴミをきれいに掃除するのです。この側溝清掃のミッションは地域住民が一齐に行うことにあります。それぞれの家を側溝が繋いでいますので、どこか一か所でも掃除ができていなければ、そこ



望みの門初老の会

から詰まりが発生してしまうからです。当日は地域住民が朝から総出で側溝のコンクリート蓋を専用の道具で外し、市役所から配布される麻袋に土を詰めていきます。側溝の詰まりは雨期や夏季には悪臭や害虫の発生の原因となるため住民が力を合わせて備える訳です。コロナ禍にありまして地域の行事が制限される中、十分に注意しながらの清掃活動であり、当然地域の連帯感を改めて感じられた一日となりました。

私も望みの門に入職して二十五年間ほぼ毎回参加しています。コンクリートを外し、スッコブで土をさらう作業は、日頃机に座っていることが多く運動不足の身には実に応え、翌日の筋肉痛は必至です。側溝清掃は主に男性職員の担当ですが、ここに福祉施設の現実が見て取れます。実は参加職員の顔ぶれがこの十数年変わらないのです。法人本部から事務局長に経理課長をはじめ各施設から施設長やセンター長らが主な面々です。職員の数は毎年増え続け、今では三〇〇名を超えています。若い男性職員も数多く採用されているのに側溝清掃に精を出すのは、毎年同じ初老の幹部職員なのです。なぜなら福祉の現場は慢性的な人手不足で、体力のある若手職員は現場を離れることができないからです。このようにして現場を持たない初老の幹部職員が側溝清掃に集うという福祉施設の悲しい縮図が出来

上がるのでした。

聖書に「十人のおとめのたとえ」というお話があります。十人のおとめがともし火を手にして、花婿が来るのを待っていました。しかし花婿の到着が予定より大幅に遅れてしまい、十人のおとめは十人とも待ちくたびれて眠り込んでしまいました。真夜中になって花婿が到着した時、全員のともし火は今にも消えそうになっています。五人のおとめは準備の油を用意していたから大丈夫です。しかし油を用意していなかった五人のおとめたちは急いで油を買いに行くも、家に戻った時はすでに戸が閉められていたというお話です。

待ちくたびれて寝てしまうのは油を用意した賢いおとめもそうでない愚かなおとめも全員同じです。これは私たち人間の避けられない弱さを表わしています。大切なのは眠らないことではなく予備の油をちゃんと用意することです。私たちは居眠りをしてしまう弱い人間であり、愚かなおとめたちというのはそのような自分の弱さや愚かさを知らないで、自分は強くて賢い人間だと思ひ込み、自分していることに自信があるから予備の油など必要ないと考えていたのです。逆に賢いおとめたちは自分が愚かで弱い人間であることを知っているから用心深く予備の油を用意したのです。側溝は泥の堆積に弱いことを知っている私たちは、皆で力を合わせ雨期や夏季に備え

筋肉痛と戦いながら懸命に掃除をするのです。

この度、私たちには身に余る素晴らしい建物が与えられました。見学にいらした方に「すごい！これこそ令和の新建設ですね」なんて褒めて頂くと、まるで自分が褒められたかのように勘違いし、低い鼻も自然と伸びてしまいます。けれどもこの時だからこそ私たちは、決して慢心することなく連綿と息づく法人創立の精神に立ち返りたいと思います。改めて自分たちの弱さや愚かさを覚え、職員同士が助け合い、利用者に地域の皆さまにしっかりと仕えていく働きに邁進してまいりたいと願います。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター 望みの門本館工事を終えて

管理者 白鳥 正道

日頃からのぞみ会のためにお祈りいただき心から感謝いたします。多くの方々のお支えにより六月末に望みの門本館が富津市川名に竣工いたしました。

デイサービスは一階に在宅系事業所と共に入ることになります。入り口は建物に向かって左側で巨大なガラス張りの庇が目を引きまます。おかげで雨の日でも安心して送迎車への乗降が可能になります。入り口を入れて正面に下駄箱、右がデイサービスになります。目

事業所、訪問介護事業所との二事業所と共に一つのフロアで開設させていただくこととなります。以前から連携を密にできるような心掛けていましたが、今後はより連携を取りやすくなる環境となることで、上手く業務に活かせるように努めていきたいと思えます。今後も地域福祉部の一員として地域福祉の概念を忘れず、地域に貢献できるように、職員一同気持ちを新たに努めていきたいと思えます。

居宅介護支援事業者 望みの門在宅サービスセンター
望みの門本館仕事を終えて

管理者 立和名 康代

介護保険制度が始まってから二十一年が経ちました。令和三年四月からは「第八期介護保険事業計画」がスタートしこれからの介護保険は、自立支援・重度化防止の取り組みがより一層強く求められる様な内容になりました。団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年、団塊ジュニア世代が六十五歳以上となる二〇四〇年を見据えて、介護保険の基本、介護予防の大切さを、二十年経った今、再認識すべき時期にきたとも感じます。

望みの門在宅サービスセンターは、介護認定を受けた方々が住み慣れたこの富津の地で、その人らしい生活を送り続けられるよう、在宅介護サービスをご本人とご家族のご要望に

お応えできるようプランを作成しております。人は高齢になったり体に障害が生じたりしても、自分らしく生活したいと思うものです。私たちは、介護保険サービスを特別な事ではなく上手に活用することで今までの生活に近い形を継続できる様に心掛けています。

最近では相談の内容も介護に限定されおらず、介護をお受けになる方を囲む家族の相談も深刻で複雑に変化をしていることを感じます。「介護の重度化」「障害のある高齢者や若年性の認知症」「精神疾患的な症状」「複雑な家族関係」等の困難事例も増えています。望みの門には地域包括支援センターをはじめといたくさんの事業所があり、どの事業所にも経験豊かな専門職がたくさん在職しております。私たちはお受けした利用者様に寄り添うため専門の部署に助言を求め、たくさんのアドバイスを頂くことが出来ます。

介護についてお困りのことがあれば、小さなことでも構いませんので是非ご相談ください。心よりお待ちしております。

地域の高齢者の皆様のおさまごまなニーズに
 対応し、信頼される高齢者介護の拠点を目指しています。さまざまなたい状態像に合わせた多



在宅サービスセンター

様な支援を合わせその人の能力を向上させるケアプランを作成できるように新しい本館でも頑張りますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

望みの門ホームヘルプサービス
たくさんの『さつがごとく』ととも

管理者 久保田 地香

望みの門ホームヘルプサービスはのぞみ会としては地域福祉の先駆けとして二〇〇〇年に開設され今年で二十一年目となりました。やっと大人の仲間入り、地域の皆様の仲間入りができたころでしょうか。私も紫苑荘介護員からホームヘルプサービスへ異動になり訪問介護員となって七年、港町特有の入り組んだ富津の道にもすっかりなれたものです。

ホームヘルプサービスの手作り感満載の事務所は望みの門デイサービスセンターのお隣にあります。開設当初からの建物ですから事務所も二十一年目。二年前の甚大な被害をもたらした台風にも耐えてくれたのですが、やはりあちらこちら傷んできているのは事実です。ホームヘルプサービスは『訪問』介護ですから、ヘルパーの皆様のお宅に訪問し支援を行います。そのため事務所は名の通り事務仕事をするだけの場所であるわけですが、ヘルパー達の相談場所、勉強部屋、休憩所等とし

て支援活動の拠点地となっています。『戻りました』と事務所に戻ってくると、ご利用者様の様子、支援の内容の検討、次回からはどのようにするかの話になります。休憩時間でも考えているのですから、望みの門のヘルパー達は熱心だなあと、いつも感心しています。そしてヘルパーのその熱心さの原動力は皆様からの『ありがとう』の言葉なのです。

私は介護職につき前は大手企業子会社のOLでした。前職も営業課でしたので人との関りが多かったのですが、訪問介護員になってからはOL時代の十倍以上の『ありがとう』を日々いただいております、また自分も口にしていくのが付きました。介護職は本当に『ありがとう』にあふれている仕事です。

そして今年、新しく望みの門本館ができ望みの門ホームヘルプサービスの事務所も移動になります。二十一年分の皆様からの『ありがとう』とともに新天地でスタートをしたいと思えます。



恩寵六〇年
主共にいまして 2



常務理事 井本 義孝
主の山に備えあり
聖書 ルカ 22：24-26
創世紀 22：14

入信五年目の三十歳の時二十二歳の妹が医師の誤診により急逝した。悲嘆にくれる両親を見るに忍びず哀しみを癒すグリーフケアカウンセラーたらんと示された。

しかし十二年務めた水道局を退職するには、長男の自分には様々な家の事情があり容易に決心がつかなかった。そして当時奉仕していた蒔田伝道所にこもり十日間断食して祈った。その結果伝道者としての献身決意が与えられた。年老いた両親に身勝手さをわびた。家内は黙って許してくれた。かくして教会の推薦を受け母校西南学院大学神学部に入學した。時に三十一歳であった。三年間は瞬間であった。時には家内の勤務上一歳未満の長男を神学寮二二三号室に柳行李を置き中に入れて教室に出た。抱いて出た時には教授の目が睨んでいるように思えたものである。しかし、この間、前記、蒔田伝道所が奉仕教会として与えられ母教会の青年が送迎してくれ、深夜博多駅には学友が單車で待つて

いてくれたことなど忘れ難い。かくして、三年は瞬間に過ぎ卒業間際となった。が、しかし自分の心は一年位前当時ゼミ担当教授の机にあったパンフ、ドイツの福祉の町「あなたはベートルを知っていますか」に触発されベートルへの思いが募っていた。ベートルの理事長からは丁寧な案内状と受け入れのアドバイスが示されていたが、自分には夢の世界であった。

しかし、内心福祉の町ベートルで学ぶことは憧れであり、日夜祈ることによりそれは次第に現実のように思えてきた。遂に卒業間際の三月、主任教授にドイツ留学を申し出た。

教授は無言であった。伝道者として牧会にみであり、家族にとっても三年間も働かず、今また家庭に戻らず留学とは大きな負担であり、かつ親不孝の極みであった。親兄弟はじめ皆反対、家内は無言の行。

今度も手をつけてわがままを詫びた。ひたすら主イエスのカルバリの十字架を思った。かくして、一九六九年三月二十八日横浜からバイカル号にて出港二日後ナホトカ上陸、列車でハバロフスクまで一泊しプロペラ機でモスクワに飛んだ。ウクライナホテルにて当時ロシアでは強制的に二泊させられ、又、ドルを売ってくれと、しつこい対応に困った。反面赤の広場やキースカヤ駅の地下鉄の設備の

豪華さには驚かされた。モスクワを出発したのは真夜中近くであった。ホテルで荷物をもってくれたポーターに感謝した。ヘルシンキでは丁度イースターであった。港で屋台の酢漬けのイワシがなんともうまかった。電車に乗ると運転手は威風堂々たる大きな女性であった。ユースホテルで二日後SAS機でボスニア湾を渡った。スエーデン空港に着いて階段を降りかけるとひよいと右手が軽くなった。なんと紳士が私の大きなトランクを持ってくれた。当時五十kgの痩せていた私は子供に見えていたかもしれない。

スエーデン、デンマークを列車でドイツに入りビーレフェルト駅に着いたのは四月五日であった。駅前から市電に乗り十数分で「ペーテル前」にて下車。

町の入り口の案内所にはコッホ先生が迎えに来てくださった。先生は御自宅にご案内してくださり何くれとなくお世話していただいた。宿舎リンデンホフでのゼミナールは五日後のためここに泊まれと一部屋を用意してくださった。お子様が三人いた。長女のバーバラ嬢、男の子のようなウーズラ、そして幼稚園生のカテリーナ、この天使のような愛らしいカテリーナは私の手を引っ張っていつもオフィア（スパー）に連れて行けとよくせがんだ。今はもう還暦近いであろう。コッホ先生には本当にお世話になった。こうしてペー

テルの研修センターリンデンホフでの学びが始まった。三十名近くの皆さんは牧師、看護師、施設の幹部職員であった。ペーテルには教育機関として幼稚園、小学校、養護学校から神学大学まであり、また大きな屋内プール、何よりも欧州随一のテンカンの総合病院、高齢者施設、精神病棟、重症心身障碍児者施設をはじめ、工場のようなクリーニング施設、家具から寝棺まで何でも作る木工所等、市民生活に必要なものはすべて整った立派な町、つまり、ここは体や心に病のある人、病者やハンデキャップのある障害者と普通の人、いわゆる健常者が助け合って暮らしている町であること、いわば共同体でも言ったほうがわかりやすく思えた。こうして、皆さんに助けられながら、リンデンホフでの三か月間のゼミナールが始まった。このリンデンホフでの見知らぬ人々との出会いがこれまでの三十三年の人生を一変させることになることは神ならぬ身の知る由もなかった。

未了

祈り



チャペル委員 神田 督

我が国では昔から「苦しい時の神頼み」と言われ、お正月には神社仏閣に詣で、祈願す

る習慣があります。誰でも本当に苦しくつらい時には「神さま助けて」と祈られた経験がおありかと思えます。祈ることは人間にだけ与えられた特徴ではないかと思えます。

キリスト教の祈りは、物言わぬ神社仏閣の神さまや仏さまではなく、目には見えませんが、天と地を創られ、永遠の昔から未来永劫に生きておられ、一時も休むことなく働き続けて、いつも私たちを護り助けてくださる神さま（人間の目に見えるようになってくださった、子なる神さまのイエス様）に祈ることです。幸いにも、キリストの教えを土台とした我が法人には四名の牧師（チャペレン）の方々がおられます。自分のこと、家族のこと、友人知人に関わる悩み事や窮状を、恥ずかしながらに率直にお話しし、祈っていただけで解決の道が示されたら素晴らしい。そんな光景があちこちの施設で日常的に見られる法人になることを心から願っています。

『長老たちを招き祈ってもらいなさい（聖書・ヤコブの手紙五章―四節）』、『正しい人の執り成しは大いに力があり、効果があります（聖書・ヤコブの手紙五章―六節）』



社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 令和2年度決算報告

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	827,140
固定資産	3,356,222
(基本財産)	1,860,384
(その他の固定資産)	1,495,837
資産の部合計	4,183,362
負 債 の 部	
流動負債	147,762
固定負債	1,026,841
負債の部合計	1,174,603
純 資 産 の 部	
基本金	723,021
国庫補助金等特別積立金	673,985
その他の積立金	565,751
次期繰越活動増減差額	1,045,999
(うち当期活動増減差額)	61,748
純資産の部合計	3,008,758
負債及び純資産の部合計	4,183,362



事業活動計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
サービス活動収益	1,768,859
サービス活動費用	1,710,108
サービス活動増減差額	58,750
サービス活動外収益	23,607
サービス活動外費用	21,988
サービス活動外増減差額	1,618
経常増減差額	60,369
特別収益	57,832
特別費用	56,453
特別増減差額	1,378
当期活動増減差額	61,748
前期繰越活動増減差額	1,003,836
当期末繰越活動増減差額	1,065,585
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	16,914
その他の積立金積立額	36,500
次期繰越活動増減差額	1,045,999

資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
事業活動収入	1,792,467
事業活動支出	1,636,013
事業活動資金収支差額	156,453
施設整備等収入	373,852
施設整備等支出	457,120
福祉事業活動収支差額	△83,268
その他の活動収入	20,088
その他の活動支出	37,399
その他の活動資金収支差額	△17,310
当期資金収支差額	55,874
前期末支払資金残高	744,938
当期末支払資金残高	800,812



編集後記

今回は望みの門本館完成特集号をお届け致しました。今からちょうど三年前、老朽化した望みの門学園の建て替えを千葉県健康福祉部児童家庭課に相談させて頂いたのが始まりでした。そこから本当に多くの皆さまに支えられ私たちに新しい建物が与えられました。改めて望みの門本館工事を通して知り合えた皆さまのお顔を思い浮かべ感謝しております。設計のUCA・都市・建築設計事務所の宇野様、施工の松栄建設株式会社の瀧原様には今回玉稿まで頂戴しました。工事の合間には現場確認のため数名でお邪魔する際、松栄建設の皆さまが必ず現場までの途中にお一人、現場付近にもうお一人と案内の為立って下さり、私たちを温かく迎え入れてくれました。私の勝手な思い込みでは建設関係の方々は気が荒く、怖いイメージを持っていたのですが、その紳士的で優しい対応には深い感銘を受けました。一方、望みの門では最近、近隣の方より職員の言動について苦情のお言葉を頂きました。ご指摘を感謝するとともに職員一同日頃の業務態度について猛省する次第であります。仕事とは、サービスとは何かをさらに学んで参ります。建物が新しくなっただけから、職員も新しく生まれ変わらなくてはなりません。